



かがやく浜の子

令和3年度 10月号

令和3年度重点目標「気づき 考え 自分から行動する子 → かがやきいっぱい」

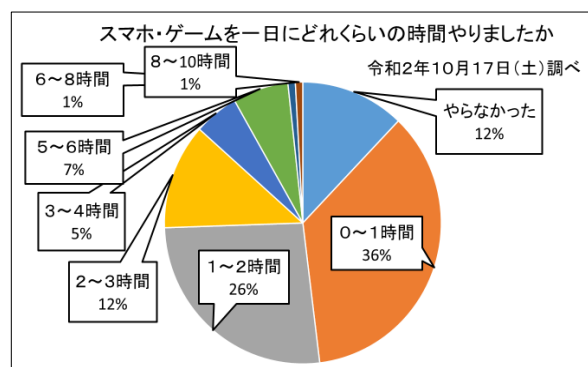
自律に向け、気づき考え自分から行動

「〇〇くん、あそぼ！」

わたしが小学生だったころは、約束なしで友達と遊びたいと思った時には、直接、お宅に伺って、このように声をかけました。遊びといえば、缶蹴りや草野球など、ほとんどが野外で、大勢の友達と、全身を使って遊んでいました。それから半世紀、特にここ十数年の通信技術の目覚ましい発達（右表参照）によって、子供の遊び方はもちろん、社会、教育の在り方まで大きく変わりました。子供たちが、物心ついたころには、スマホやタブレットが当たり前のようになり近くなりました。遊びの約束もSNSでできるようになりました。遊びもバーチャルあつたり指先で完結したりすることが増えました。

【インターネットの主な歴史】 インターネット↓

年号(年前)	日本における出来事	普及率
1996年(25)	Yahoo! Japan 開始	3.3%
1999年(22)	携帯電話インターネットサービス開始	21.4%
2003年(18)	家庭向け光回線登場	64.3%
2007年(14)	You Tube 開始	
2008年(13)	iPhone 発売 Facebook、Twitter 開始	
2010年(11)		78.2%
2011年(10)	iPad 発売、LINE 開始	
2014年(7)	Instagram 開始	
2017年(4)	Tik Tok 開始	



左グラフは、昨年度、白羽小学校4年生から6年生に取ったアンケートによる、休日のインターネット・ゲームの使用時間の結果です。数時間以上の子も9%ほどありました。また、保護者の皆さんにお答えいただいた「スマホやゲームの使用について困っていることや心配していること」については、「約束の時間が守れない」、「止めさせようとするとうライラします」「与えたくない必要以上の情報が入ってしまう」など使用時間や態度、SNSの特性に関することが、数多く寄せられました。私たちは、安心して豊かな生活を送るため、

SNSに振り回されず自分を律する「自律」を身につけ（させ）る必要があります。

10月14日(木)に5・6年生と6年生保護者を対象に、浜松学院短期大学の今井昌彦教授による教育講演会を行いました。内容は「①スマホ脳とSNSの依存性の高さ②デジタルタトゥーの拡散の速さと永久性、生活への影響③文字コミュニケーション、同調圧力への対応の難しさ」などでした。いずれも、子供たちが近い未来に直面しかねない重要な問題です。

今井教授の講話の後、質問の場を設けました。そこでは、児童が「同調圧力になぜ押されてしまうの?」「SNSでもし外されてしまったときは?」「依存症が治るにはどれくらいかかるの?」「よくない動画が送られてきたときはどう対処する?」と積極的に質問をしました。子供たちが真剣に受けとめ、自分事として考えている表れです。今井教授も、お帰りになる際に、「前向きで素晴らしい子供たちですね。」「保護者の皆さんの様子からも真剣さが伝わってきました。」と、声をかけてくださいました。参加した方々にとって、今の自分に「気づき」、未来に向けて「考える」貴重な機会とすることができました。

※

地域の方から嬉しいお電話をいただきました。その方が、家の近くのお茶畑で草取りをしていたとき、通りかかった白羽小の子3人が、「おばあさん、今年はハチが多いから気をつけてね」と声を掛けてくれたということでした。その声掛けに「白羽小学校はやさしい子がいるな」と、とても嬉しくなったということで、学校に御連絡くださいました。相手のことを思いやる声をかけた3人の子の行動をととても嬉しく思います。(文責 校長)